



誰かのために何かをする

ひと雨ごとに秋の深まりを感じる時期になりました。強風の中の体育祭を終えた後は一気に季節が変わり、その後は前期の期末テスト、気づいてみれば9月はあっという間に過ぎ去ったような気がします。

台風一過となり、久々の青空が広がった先日、生徒会役員選挙の演説会が行われました。今回は立候補者が8名で、本部役員の定員ちょうどだったため投開票は実施せず、体育館での演説のみとなりました。今回3年生からのバトンを引き継ぐのは、1年生4名・2年生4名です。それぞれの候補の応援者と立候補した本人が、体育館の壇上から全校生徒へ向けて、自分の思いを話しました。投開票を行わないので、選挙演説というよりは決意表明という形に近かったと思いますが、どの候補者にも共通していたのは、今までも3年生が繰り返し呼びかけていた「より良い船中を作ろう！」という思いでした。それぞれが今まで活動してきた生徒会役員の姿への尊敬や憧れを抱きながら立候補したこともあり、一人一人の言葉の中に「より良い船中」への願いが込められていたように感じました。

印象に残った言葉をまとめると、『船中の生徒同士の絆を大切にして「明日も来たい」と思えるような学校を作りたい。そのための架け橋となってみんなのために働きたい。』ということだったと思います。さらに、新生徒会長候補となった2年9組の小林和夏さんからは、『ゴールは全員が船中を好きになること。』という言葉がありました。

今回の演説会では、全校生徒一人一人それぞれが自分にできることをやることで、みんなが学校を好きになれる…そんな学校がこれから目指す「より良い船中」の姿なのだ、という力強いメッセージを受け取った気がします。そして、<誰かのために何かをしたい>という思いが少しずつ何かを変えていく、ということであらためて感じました。

ところで、船橋市の姉妹都市である中国の西安へ持って行く絵を美術部が制作してくれていて、西安訪問の前までに生徒にお披露目したいと思っていたのですが、横幅が約5m以上と、あまりに大きく重量もあるため、なかなか飾ることができずに校長室に置いていました。しかし、このたび技術工作クラブの生徒達が木工の巧みの技を駆使して、見事に職員室前のロッカーの上に飾ってくれました。作品を制作してくれた美術部も、飾ってくれた技術工作クラブも、本当にありがとうございました。これも「誰かのために何かをする」ということの一つの形だと思います。学校においでの際には是非ご覧になってください。

